

ありだし 社協 だより

あがらが主役
あがらが創る
あがらのまち

2022
9



小学校6年生児童代表が
毎月将来の夢を発信！
10年後、成長した姿を
地域の皆さんに発信します！



港小学校 6年生



将来の夢

初島小学校 6年生



有田市社会福祉協議会
HPはこちら



NEXT ▶ 次号は、保田小学校から「夢」発信！

社協だよりは、「赤い羽根共同募金」配分金と寄付つき商品事業「JUST」による寄付金の一部で発行させていただいています。

第3次有田市地域福祉活動計画で重点課題として
いる「当事者の課題共有」
に対する取組です。



車いすユーザー
桑原 安子 さん

桑原さんは、先天性の障害のため車いすでの生活。幼少期から高校までを障がいのある子どもたちが暮らす施設で育ち、小・中・高は、養護学校（現：特別支援学校）で学ぶ。卒業後は、和歌山市にある福祉工場に勤務し、有田市から自家用車で通勤していた。

18歳で取得した運転免許証

桑原さんは、どこへ行くのもご自身で軽自動車を運転されます。何でもやってみたいという好奇心旺盛なタイプとご自身でもおっしゃいますが、免許証を取りたいと親御さんに相談したときにはかなり心配されたそうです。

今から約30年前に、車いすで生活されている方がご自身で車を運転するというのはそれほど多くなかったかも知れません。どの家庭でも子どもさんが初めて免許を取った時には心配するものです。そんな親心以上に、我が子の、自分の意思では足が動かないというハンディを心配されていたことだったと思います。

「できないんじゃないくて、させないの。」

桑原さんが障害のある方の親御さんたちとの話の中で感じるのだそうです。

親御さんを説得して取得した運転免許証が、桑原さんの世界を広げてくれました。毎日の通勤はもちろん、大阪南部まで遊びに出るなどアクティブに過ごしてきたそうです。仕事をしていた間は、朝6時半に家を出て、帰ってくるのも夕方6時半頃。自宅の車庫から移動するので、ご近所の方と顔を合わす機会はほとんどなかったそうです。

「あれ？ここに車いすのお姉ちゃんおったんか?!」

東日本大震災の後、町内での避難訓練等が活発になった時期がありました。当時の区長さんが桑原さん宅に声掛けに来てくれた際に、応じた桑原さんに発せられたこの言葉が忘れられないそうです。

地震の後は、道も荒れ、車いすでの移動はできないでしょう。ましてや災害時は車での移動はしないように啓発されています。唯一の移動手段である車を選べない災害時は、ご家族含め桑原さん自身も避難することを諦めている状態だとおっしゃいます。



障害者用の駐車スペースが広いのは、乗車の際に、ドアを完全に広げ、車いすを後部座席に積み上げる作業のため。その意味の理解が必要。

「でも、ガレキの中から私を発見してくれた人は、心に傷が残るんじゃないかと・・・。」

桑原さんのこの言葉に、聞き手もハッとさせられました。それ以降、車いすでの散歩を心がけ、ご近所の方とのあいさつなどを心がけておられます。「お互いに顔も知らない方に、何かあった時に助けてなんてとても言えない。」

でも、普段から関わっている人なら頼めるようになるかも知れない。そう思ってお知り合いを増やそうとされています。

【災害時避難行動要支援者と個別避難計画】

高齢者や障害者等のうち、自ら避難することが難しく、避難のために情報開示に同意されている方については、災害対策基本法により、市町村長は、その方の個別避難計画の作成に努めることとされている。

※災害対策基本法の改正（法第49条の14 個別避難計画の作成を市町村の努力義務化：令和3年5月）

今回のインタビューから教えてもらったことは、個別避難計画をつくるためには、普段のつながりづくりが前提条件であるということではないでしょうか。お仕事をされている方は、桑原さんのように隣近所の方と顔を合わせる機会は少ないかも知れません。

「普段お互いを知らない方に助けてとは言えない。」

このことは、障害があるなしに関わらず、災害時に誰もが感じる不安・躊躇いになるかも知れません。

コロナ禍で、地域の行事や学校行事が減っている中、ご近所の方々とお会いする機会も減っていませんか。周りの方の状況は変わっていませんか。当事者の方を含め、ご自身の周りの方の暮らしを時に気にかけてみませんか。

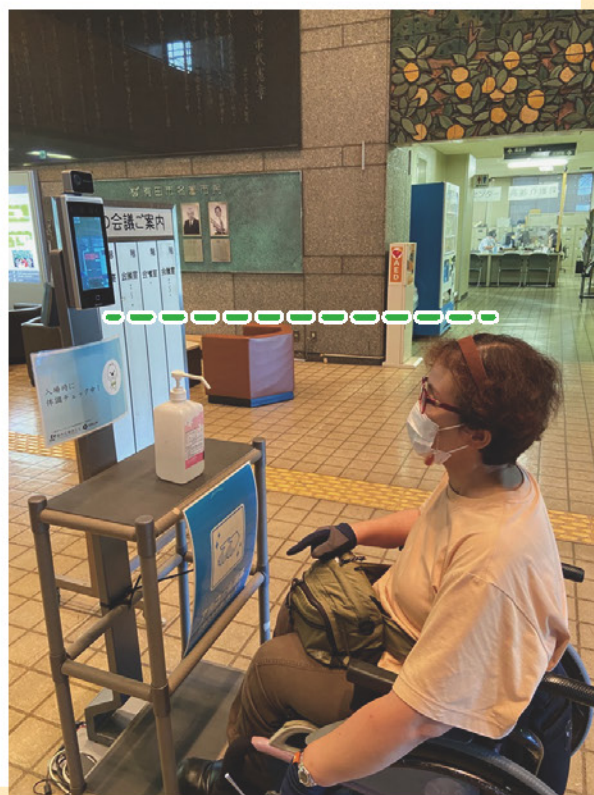
（聞き手 社協・宮本）

◆インタビューでの気づき

今や当たり前となった非接触式体温計。顔を近づけるだけで検温できますが、車いすユーザーでは画面に入ることが出来ません。背の低い方や子どもさんも同じことが言えます。目の不自由な方は、そこに体温計があることが分からないと思われるのです。

また、公共施設には必ずある点字ブロックは、視覚障害のある方にとってはなくてはならないものですが、車いすユーザーやベビーカーを利用している方にとっては転倒につながることもあるそうです。

物理的な環境で、どんな方にも配慮された完璧さは難しくても、お互いの声かけやサポートにより、だれもが暮らしやすくなる有田市を目指したいと改めて感じました。



災害ボランティアセンターをご存知ですか？

有田市において甚大な災害が発生した場合、有田市地域防災計画に基づき、有田市社協が「災害ボランティアセンター」を立上げ、運営することが決まっています。

このセンターでは、被災された住民の方の思いに寄り添い、ご自宅の片付け（ガレキの撤去・泥だし・家財の移動など）を支援するために、ボランティアの方々を被災者をつなぎます。

そのために必要なニーズの受付・ボランティア募集・調整管理など、業務は多岐に渡ります。

「災害ボランティアセンター センター運営を学ぶ会」 を開催します。

日時	令和4年10月29日（土） 10時～12時
場所	有田市福祉館なごみ 2階研修室
対象	有田市災害ボランティア登録者 活動に興味のある方
申込	電話 0737-88-2750
締切	10月14日（金）



皆様のあたたかいご協力をお願いいたします

今年も「じぶんの町を良くするしくみ」をスローガンに、赤い羽根共同募金運動が10月1日から始まります。この運動は、民間の社会福祉事業を支援するための募金として「社会福祉法」に位置づけられ、全国一斉に展開されます。

和歌山県内で寄せられた募金は、県共同募金会を通じ、高齢者、障がい児者、子どもたちへの福祉活動のほか、様々な福祉課題に取り組むボランティア活動等、社会福祉事業の貴重な財源となっています。

有田市では、小中学校への図書寄贈、保育所・幼稚園への絵本の寄贈、高齢者の生きがい作りや健康増進の活動、福祉教育、ボランティア活動の推進等、地域の身近な活動に使用させていただいています。

皆様のご支援とあたたかいご協力をお願いいたします。

有田市共同募金委員会
(有田市社会福祉協議会内)

学校にいけない・いかない子をもつ

拡大
交流会
開催

親同士がつながる場

立場の違う面々で交流し、
お互いに気づきを得る時間にしませんか？

日時	令和4年9月18日(日) 午後1時30分～午後3時30分
会場	有田市民会館 第1会議室
ゲスト	日本福祉大学 野尻紀恵先生と学生たち 摂南大学 上野山裕士先生と学生たち

【参加対象】

・不登校や行き渋りのある子をもつ親

【ゲスト】

・不登校経験のあるスクールソーシャルワーカー
・これから

有田市で不登校支援をはじめた大学生
子どもネットワークに取組む先生方

ご参加を希望の方は、
右のQRコードまたは
お電話でお申込みく
ださい。
TEL 0737-88-2750
(平日8:30~17:15)



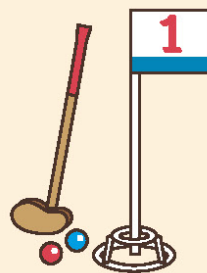
社会福祉協議会主催 グラウンドゴルフ大会のお知らせ

赤い羽根共同募金配分金事業として、グラウンドゴルフ大会を行います。

日時	2022年10月4日(火) 午前8時30分より (雨天の場合は10月6日(木)に延期します。)
場所	ふるさとの川総合公園 多目的運動場
対象者	概ね60才以上の方
申込み	9月27日(火)までに、本会あて氏名、性別、生年月日、 電話番号を電話にて申込お願いします。

※コロナウイルス感染状況を考慮し、急きょ開催を中止することがあります。
その場合は、本会ホームページ上で告知しますのでご確認ください。

たくさんのご参加を
お待ちしております。



地域活動総合情報サイト

『あるあるarida』

が動き始めています!

有田市にはいろんな活動があるのに、うまく周知できていません。
そこで、「観る」側と「発信する」側の両方のニーズを満たすこと
ができるように『あるある arida』を開設しています。

発信情報を幅広くしたいので、関心のある方はぜひお問い合わせ
ください。

